

2028年技能五輪国際大会の基本的な方向について

技能五輪国際大会は、原則22歳以下の青年技能者を対象に、技能競技を通じ、参加国・地域の職業訓練の振興及び技能水準の向上を図るとともに、国際交流と親善を目的に隔年で開催されている。

我が国は、1962年にアジアで初めて技能五輪国際大会に参加して以降、これまでに3度、技能五輪国際大会を開催してきたが、21年ぶり4度目となる、2028年技能五輪国際大会（以下「大会」という。）の日本・愛知での開催が決定された。

当大会は、技能五輪国際大会の「技能の力で世界を前進させる」という理念の下、次世代を担う若者が技能への関心を高めるとともに、技能が尊重される世界的なムーブメントを加速させ、人材育成並びに経済及び産業の発展、持続可能な未来に貢献することを目的とするものである。

こうした目的を持つ大会を日本・愛知で開催することを通じて、技能五輪国際大会の理念が広く我が国に浸透することは、国、愛知

県、経済界をはじめとする関係各方面に大きなレガシーを残すものとなる。

このため、国、愛知県及び一般財団法人 2028 年技能五輪国際大会日本組織委員会（以下「組織委員会」という。）が協力して準備を進めることとし、大会の経費分担について以下のとおり決定するものとする。また、大会準備の円滑な実施のため、組織委員会が策定する大会予算について、経費の縮減・効率化を図るとともに、必要な財源の確保に努めるものとする。

大会の成功に向けて、国、愛知県及び組織委員会は、相互に緊密な連携を図り、一丸となって取り組んでいくこととする。

1 経費分担

- (1) 国は、大会経費のうち、三分の一相当額を負担する。
- (2) 愛知県は、大会経費のうち、三分の一相当額を負担する。
- (3) 組織委員会は、大会経費のうち、三分の一相当額を事業収入（※）及び民間（海外スポンサーの分を含む。）からの現物協賛、資金協賛、寄付等により確保するものとする。

(※) 事業収入には、大会参加者の宿泊料等のいわゆるパッケージ収入を含む。

2 区分経理

公費が投入される経費等について、組織委員会内で区分経理し、収支の明確化を図る。

3 大会準備における進行管理の強化

国、愛知県及び組織委員会は、今後、大会の準備及び運営に関する具体的な業務について、状況等に即して内容を精査の上、実施に当たっては進行管理に万全を期していく。また、国、愛知県及び組織委員会により業務管理委員会を設置し、コスト管理と執行統制の強化を図る。